

建築・空間分野 | その他

061

BusStop-O

伊藤憲吾建築設計事務所、大分県、山佐木材(株)



概要

大分駅併設のバスターミナルにあるバス停である。大分県によるCLT工法による実証棟として建てられた。CLT工法の可能性の模索として、斜材としての活用をしている。斜めに切り取られた事により、パネルそのものの存在感を感じ工法そのものの在り方を示している。待合で待つ人、歩道を行き交う人が、角度を変えて現れ、木材の塊感と同時に透明感を出している。都市部において構造木材に触れられることは、木を愛でる文化を持つ日本人の愛着を促すことになる。

◆仕様:木質構造CLT工法、入手先:伊藤憲吾建築設計事務所  
http://itokengo.seesaa.net/

評価ポイント バス停留所という誰もが利用する街のシンボルに着目した点が良い。常設ならではの重厚感がある。今後の広げ方に期待したい。

建築・空間分野 | 屋内空間

058

Hako Dake Hiroba(北海道産針葉樹材を活用した製品開発プロジェクト)

(株)ハルキ、(株)内田洋行、パワープレイス(株)、函館空港ビルディング(株)、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場



概要

幼稚園児や小学生を対象とした室内専用複合遊具です。北海道産材を活用し、木の香り・堅さ・柔らかさなどの感触を感じ、安全面にも十分配慮しつつ、楽しく遊べるよう設計しています。行政や専門機関を含む異業種でプロジェクトを組み、地元の子どもや多くの人が関わって完成しました。施設の半分は遊具ですが、半分はギャラリーとして地元小学生の木工レリーフ作品を展示しています。この遊具には森、地域、それを育てて来た先人達を考え学んで欲しい、地域住民の憩いの場になって欲しいという願いが込められています。



◆入手先:株式会社ハルキ、株式会社内田洋行  
http://mori-haruki.co.jp/wp-content/uploads/2015/05/hakodakehiroba.pdf

評価ポイント 多様な場所に設置可能な屋内複合遊具であり、地域材を活用しつつ、遊びやギャラリー機能も併せ持つコミュニケーションツールとして優れている。各々での横展開の可能性を感じる提案である。

建築・空間分野 | その他

062

答志島ブルーフィールド

YUTANI DESIGN、鳥羽商工会議所



概要

伊勢湾に浮かぶ答志島の東端に位置している、「蒼い原っぱ」と名付けられたこのプラットフォームは、一辺約14.5mの正三角形である。床の高さは周囲の柵から視線を開放的にするためGLから約900mm。床上に立つ壁はFLから1200mmとすることで、両サイドのベンチに腰掛ければ身体が三角形の空間に包まれ、海、空、島々と特別な時空間を体験することができる。128本の杭、土台、大引きいずれも三重県産檜で基礎を構成。床板には安価で良質な宮崎産の杉板を、厚さ36mm、木裏を表面に使用することでたわみと水はけに配慮している。

◆http://www.yutanidesign.com/TOSHIJIMA-BLUE-FIELD

評価ポイント 木材を活用した、地域の観光シンボルとして新規性ある提案である。ステージでもあり、展望台のようでもある、利用価値の高さからイベントや活動の拠点化が期待できる。

建築・空間分野 | その他

059

風の音 Sound of wind

芦澤竜一建築設計事務所、セイレイ興産(株)、(株)ホロニック、(株)戸田建設、(株)シェルター、中川弦楽器製作所



概要

琵琶湖から吹く自然の風を強く感じるとる楽器としてのチャペル建築を計画した。内部空間の上部に0.72mmのSUSワイヤーを91mmピッチで張り、風が流れると音を奏でる。3次元の形態は、国産カラマツ材LVLの湾曲材による連続した架構によって実現している。流れる空気により弦が共振し、筐体である建築壁内で共鳴し音が生まれる。風の音によって人々に自然の力を想像させる空間をつくる。



◆仕様:構造・国産カラマツ材/仕上材・栗材等、入手先:芦澤竜一建築設計事務所  
http://r-a-architects.com/prj/2013/soundofwind.html

評価ポイント 建築と音の関係に着目した、ユニークで独自性ある取組。構造体を木造にすることで、音響空間としてのクオリティを向上させている点も面白い。

建築・空間分野 | その他

060

まちなか案内所

伊藤憲吾建築設計事務所、大分市、(株)まちなか倶楽部



概要

大分駅の北側の歩道上に建つ仮設建築の観光案内所である。駅からの視認性を高めつつ、マッシブな木の塊を表現している。構造形式は、短い工期、解体を見越した施工を考慮し、CLT工法を採用している。駅に向けて視認性を高めるために、現在CLT認定工場で作成可能な最大パネルサイズ(4m)を高さ方向に採用している。街中のロケーションやCLT工法の発展性を考慮して「ビル型」をアイコン的外観とし、木質都市の連想を考えた。



◆仕様:木質構造CLT工法(仮設建築)、入手先:伊藤憲吾建築設計事務所  
http://itokengo.seesaa.net/

評価ポイント CLT工法を使った造形がユニークで印象深い。木質空間を都市のアイコンとして設置するという、案内所をコミュニケーションツール化している点に独自性がある。